

平成 21 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2005～2008

課題番号：17202002

研究課題名（和文） 両漢儒教の新研究

研究課題名（英文） The new study of Confucianism in the Former and Latter Han

研究代表者

渡邊 義浩 (WATANABE YOSHIHIRO)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：40241400

研究成果の概要：本研究は、両漢儒教に対して新たなる方法論による総合的な研究を行った。第一に、従来、中国哲学・東洋史・中国文学のように分かれて研究されてきた両漢文化を複合的に学際的に研究する方法論を取り、第二に、出土資料の研究成果を積極的に取り入れた。その結果、研究代表者は一冊の研究書を、共同研究の成果としては毎年一冊ずつ計四冊の研究書を出版し、両漢儒教の研究を大きく進展させた。

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
2006年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2007年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2008年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
年度			
総計	33,300,000	9,990,000	43,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：国際研究者交流・中国・中国哲学・中国古代史・儒教

1. 研究開始当初の背景

中国の支配理念である儒教が国教化された時期をめぐっては、中国哲学と中国史学とで大きく見解が分かれていた。

それは、両者の垣根を超える学際的な研究が行われていなかったためである。具体的には、中国史学研究者が指摘していた、前漢武帝期に董仲舒の献策により五経博士が置かれ、儒教が国教化された、という班固の『漢書』の記述は誤っている、との事実は、中国哲学研究者には受け入れられていなかった。

こうした両者の乖離が中国史学と中国哲学の双方の研究者の共同により行われた本研究の背景にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、両漢儒教に対する総合的な研究を目指すことに置かれた。

そのため、第一には、従来、中国哲学・東洋史・中国文学のように分かれて研究されてきた両漢文化を、それらの垣根を取り払って、マルチディシプリナリーまたはインターディシプリナリーな総合的研究を行った。

第二に、先秦儒教の研究で大きな成果を挙げた出土資料を利用した。先秦儒教の研究成果を両漢儒教の研究に反映させたのである。以上の二つの観点より、両漢における儒教という思想文化と政治権力との関わりについて

て、見直しを行うことを目指したのである。

3. 研究の方法

初年度は、従来の研究史・学説史を各分野にわたって調査することに力点を置き、儒教の国教化をめぐる国際シンポジウムとして「両漢の儒教と国家権力」を東方学会との共催により行った。

そこで掲げられた問題提起に従って、二年度・三年度は、儒教経典と政治権力との関わりを追求した。同じく、東方学会との共催により「両漢における三礼の展開」、「両漢における『春秋』三伝の相剋」という国際シンポジウムを行うとともに、東京大学を会場に、独自の国際シンポジウムとして「易と術数研究の現段階」「詩経研究の現段階」を行った。

最終年度は、これらの成果を踏まえ、儒教と政治権力とが、最も密接な関わりを持つ「天」に関する国際シンポジウム「両漢における「天」の文化——思想史と歴史学の連携による」を東方学会と共催した。また、メンバーそれぞれが四年間の研究成果を結実させた論文を作成した。

4. 研究成果

以上の研究方法によって、研究代表者は一冊の研究書を、共同研究の成果としては毎年一冊ずつ計四冊の研究書を出版した。すなわち、2009年3月に、渡邊義浩『後漢における「儒教国家」の形成』(汲古書院)を刊行し、2005年4月から2009年3月までの4年間に、『両漢の儒教と政治権力』(汲古書院、2005年)、『両漢における易と三礼』(汲古書院、2006年)、『両漢における詩と三伝』(汲古書院、2007年)、『両漢儒教の新研究』(汲古書院、2008年)という四冊の共同研究の成果を刊行したのである。

四年間にわたり、中国史学・中国哲学の枠を超えた学際的な共同研究を行うことにより、両者に共通する認識が着実に積みあげられた。具体的には、これまで、中国哲学と中国史学との間で、共通の認識を持ち得なかった「前漢武帝期に董仲舒の献策により五経博士が置かれ、儒教が国教化された」という班固の『漢書』の偏向による誤った認識は、溝口雄三・池田知久・小島毅『中国思想史』(東京大学出版会、2007年)の中では否定され、また、山川出版社の高等学校用教科書『詳説世界史』からも削除された。

しかし、一方において、研究が進展するにつれ、両漢における儒教の問題を「両漢」という時間軸のなかだけで解明することに、次第に限界を覚えてきたことも事実である。最終年度の国際シンポジウム「両漢における「天」の文化」において、儒教の「天」を扱うだけではなく、道教の「天」を対比材料として比較・検討を試みたのは、両漢という時

間軸・儒教という分析視角だけでは、学際的な研究に限界のあることを認識したからに他ならない。

ことに、漢の儒教を集大成したとされる鄭玄の学説は、鄭玄に対する全面的な批判者である魏の王肅の学説を研究することで、初めてその儒教史上における位置を確定することができる。そして、魏から始まる魏晉南北朝時代は、漢代までの儒教一尊に代わって、儒・史・文・玄の四学、儒・仏・道の三教が兼修された時代となる。

今後は、中国哲学・中国史学だけではなく、中国文学をも含めた学際的な研究が、さらに必要なのである。儒教だけでなく、文学や玄学、道教や仏教をも視座に入れた新たな総合研究を目指していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計38件)

渡邊義浩、「両漢における天の祭祀と六天説」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、101～128頁、査読無

渡邊義浩、「両漢における華夷思想の展開」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、429～456頁)査読無

渡邊義浩、「陳寿の『三国志』と蜀学」、『狩野直禎先生傘寿記念 三国志論集』、汲古書院、2008年、327～356頁、査読無

渡邊義浩、「王肅の祭天思想」、『中国文化』66、2008年、1～15頁、査読有

渡邊義浩、「「受禪表」碑における『尚書』の重視」、『三国志研究』3、2008年、36～48頁、査読有

渡邊義浩、「九品中正制度与性三品説」、『新史学』8、2008年、163～175頁、査読有

渡邊義浩、「西晋における華夷思想の変容」、『漢学会誌』48、2009年、53～77頁、査読無

池田知久、「天人相関と「自然」」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、33～94頁、査読無

三浦國雄、「道教の天——初期天師道における「天帝」を中心に」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、167～196頁、査読無

渡辺信一郎、「前漢時代の宗廟と楽制『安世房中歌』十七章と承天のイデオロギー」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、257～316頁、査読無

池澤優、「後漢時代の鎮墓文と道教の上章文の文書構成——『中国道教考古』の検討を中心に」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、343～428頁、査読無

辛賢、「王弼忘象論再考」、『兩漢儒教の新研究』、汲古書院、2008年、457～482頁、査読無

辛賢、「揺れ動く「象」 その重層性をめくつての試論」、『狩野直禎先生傘寿記念 三国志論集』、汲古書院、2008年、69～98頁、査読無

堀池信夫、「無と道 韓康伯の思想」、『狩野直禎先生傘寿記念 三国志論集』、汲古書院、2008年、21～48頁、査読無

渡邊義浩、「兩漢における『春秋』三伝と国政」、『兩漢における詩と三伝』、汲古書院、2007年、127～164頁、査読無

渡邊義浩、「鄭箋の感生帝説と六天説」、『兩漢における詩と三伝』、汲古書院、2007年、415～432頁、査読無

渡邊義浩、「漢魏における皇帝即位と天子即位」、『東洋研究』165、2007年、1～27頁、査読無

渡邊義浩、「西晋における「儒教国家」の形成」、『漢学会誌』47、2007年、77～96頁、査読無

池田知久、「『周易』研究的課題与方法」、『儒教文化研究』8、2007年、35～68頁、査読有

池田知久、「Rivalry Surrounding the Three Commentaries on the Chun-chiu during the Former and Latter Han」TRANSACTINS OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES No.L 2007、pp124～131、査読有

堀池信夫、La Thèse de l'Origine occidentale de la Civilisation chinoise et la Thèse de l'Origine chinoise de la Civilisation occidentale: les Figuristes et les Savants de la Chine des Qing L'Image de l'autre vue d'Asie et d'Europe、Honoré Champion Éditeur 2007、pp99～111、査読有

李承律、16
2007 209～251 査読有

渡邊義浩、「西晋における五等爵制と貴族制の成立」、『史学雑誌』106-3、2007年、1～31頁、査読有

渡邊義浩、「後漢における礼と故事」(『兩漢における易と三礼』汲古書院、2006年、175～200頁) 査読無

渡邊義浩、「九品中正制度と性三品説」、『三国志研究』1、2006年、61～74頁、査読有

渡邊義浩、「中国における儒教の復権 「よみがえる孔子、21世紀の中国の知恵」制作を中心に」、『人文科学』12、2006年、213～227頁) 査読無

池田知久、「『周易』研究の課題与方法」、『兩漢における易と三礼』、汲古書院、2006年、329～366頁、査読無

堀池信夫、「漢代の「権」について」、『兩漢における易と三礼』、汲古書院、2006年、201～230頁、査読無

堀池信夫、「夫人の出国 董仲舒の「変礼」についての補遺」、『兩漢における易と三礼』、汲古書院、2006年、399～410頁、査読無

近藤浩之、「『日書』より見た『周易』卦爻辞の用語・語法に関する考察」、『兩漢における易と三礼』、汲古書院、2006年、59～82頁、査読無

辛賢、「易緯における世範と『京氏易伝』」、『兩漢における易と三礼』、汲古書院、2006年、83～124頁、査読無

姪 渡邊義浩、「後漢儒教の固有性 『白虎通』を中心に」、『兩漢の儒教と政治権力』汲古書院、2005年、125～148頁、査読無

姪 渡邊義浩、「日本における儒教の「国教化」をめぐる研究について」、『兩漢の儒教と政治権力』、汲古書院、2005年、253～286頁、査読無

姪 渡邊義浩、「ヨーロッパの哲学者から見た儒教 ヘーゲル・ウェーバーを中心に」、『兩漢の儒教と政治権力』、汲古書院、2005年、303～322頁、査読無

嬰 堀池信夫、「前漢における孝の転回と国家」、『兩漢の儒教と政治権力』汲古書院、2005年、97～118頁、査読無

娵 池澤優、「「孝」の文化的意義 漢代における生者 死者関係を中心に」、『兩漢の儒教と政治権力』、汲古書院、2005年、73～92頁、査読無

婆 李承律、「2 郭店楚簡『性自命出』の性情説と「礼楽」 礼楽の根源の思想史的展開」、『兩漢の儒教と政治権力』、汲古書院、2005年、21～64頁、査読無

姪 辛賢、「韓国における近十年の兩漢研究」、『兩漢の儒教と政治権力』、汲古書院、2005年、287～302頁、査読無

〔学会発表〕(計8件)

渡邊義浩、「兩漢における天の祭祀と六天説」第53回国際東方学会議東京会議、2008年5月24日、日本教育会館

池田知久、「天人相関と「自然」」第53回国際東方学会議東京会議、2008年5月24日、日本教育会館

三浦國雄、「道教の天 「初期天師道における「天帝」を中心に」第53回国際東方学会議東京会議、2008年5月24日、日本教育会館)

渡邊義浩、「兩漢における春秋三伝と国政」第52回国際東方学会議東京会議、2007年5月18日、日本教育会館

渡邊義浩、「在西晋五等爵制と貴族制的成立」中国社会科学院、2007年5月29日、中国社会科学院

渡邊義浩、「曹魏政權対“文学”の宣揚」
(第二届中国許昌三国文化學術研討会、
2007年6月1日、中国許昌迎賓館
近藤浩之、「重新考察馬王堆帛書：以《周易》為例」、2007中國簡帛學國際論壇 2007
年11月12日、台湾大学
渡邊義浩、「後漢における礼と故事」、第
51回国際東方学者会議東京会議、2006年
5月19日、日本教育会館)

〔図書〕(計14件)

渡邊義浩、『後漢における「儒教国家」の
形成』、汲古書院、2009年、302頁
渡邊義浩(編)、『兩漢儒教の新研究』、汲
古書院、2008年、488頁
渡邊義浩(主編)、『全譯後漢書』列傳(五)
汲古書院、2008年、835頁
渡邊義浩(編)、『兩漢における詩と三伝』、
汲古書院、2007年、463頁
渡邊義浩(主編)、『全譯後漢書』列傳(二)
汲古書院、2007年、795頁
渡邊義浩、『宗教から見た中国古代史』、
ナツメ社、2007年、463頁
溝口雄三、池田知久、小島毅、『中国思想
史』、東京大学出版会、2007年、244頁
李承律、『郭店楚簡儒教の研究 儒系三
篇を中心に』、汲古書院、2007年、667
頁
渡邊義浩(編)、『兩漢における易と三礼』、
汲古書院、2006年、487頁
渡邊義浩(主編)、『全譯後漢書』志(六)
郡國、汲古書院、2006年、388頁
渡邊義浩(主編)、『全譯後漢書』列傳(六)
汲古書院、2006年、751頁
池田知久、『馬王堆漢墓帛書五行研究』、
中国社会科学出版社、2006年、516頁)
池田知久、『池田知久中国思想史論文集』、
中華書局、2006年、422頁
渡邊義浩(編)、『兩漢の儒教と政治権力』、
汲古書院、2005年、326頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 義浩 (Watanabe Yoshihiro)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：40241400

(2) 研究分担者

池田知久 (Ikeda Tomohisa)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：50036555
三浦國雄 (Miura Kunio)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：17520036
堀池信夫 (Horiike Nobuo)
筑波大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：10091927
渡辺信一郎 (Watanabe Shinichirou)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：10031618
池澤優 (Ikezawa Masaru)
東京大学大学院・人文社会系研究科・准教授
研究者番号：90250993
近藤浩之 (Kondou Hiroyuki)
北海道大学大学院・文学研究科・准教授
研究者番号：60322773
李承律 (Li Shouritu)
東京大学大学院・人文社会系研究科・講師
研究者番号：10361560
辛賢 (Shin ken)
大阪大学大学院・文学研究科・講師
研究者番号：70379220